

記念講演：文化遺産としての棚田の顕彰と保護 — その25年のあゆみ —



本中 眞 (もとなか まこと)

1954年、大阪市生まれ。現在、各地の世界遺産・文化遺産アドバイザーをつとめる。2018年まで内閣官房内閣参事官として世界遺産「明治日本の産業革命遺産」の保全施策に従事。2015年3月まで文化庁主任文化財調査官として名勝・文化的景観・世界遺産の保護に携わり、庭園や石垣など文化財の選定保存技術の継承にも力を注いできた。

著書 棚田学会編『棚田学入門』勁草書房（共著／2014年）など。

事例報告1：新旧の農業が混じり合う山村の棚田文化



竹下 伸一 (たけした しんいち)

1973年、京都府峰山町生まれ。宮崎大学農学部准教授。棚田学会会員。研究テーマは棚田の水利と微気象環境の解明。日南市坂元棚田文化的景観保護・活用計画策定委員会委員として2013年の重要文化的景観認定に関わる。2015年より宮崎大学 GIAHS 研究会メンバーとして活動。学生時代の自転車日本一周が人生の糧。

事例報告2：平戸島における棚田の保全と地域文化の継承



植野 健治 (うへの けんじ)

1975年、長崎県生まれ。1998年平戸市役所入庁。観光部署を経て2007年から文化財部署勤務。主に、重要文化的景観と世界文化遺産の保全と活用に関する業務を行う。過疎化が進む集落の持続可能性を文化観光という切り口から検討し、事業化していくことが目標である。

事例報告3：フィリピン・イフガオの棚田と先住民の民の知識

— 継承と棚田文化保全 —



関口 広隆 (せきぐち ひろたか)

1963年、東京都台東区生まれ。外務省専門調査員、JICA 専門家などを経て、現在日本ユネスコ協会連盟勤務。伝統的な知識の継承が持続可能な社会づくりに果たす役割を考えていたなか、フィリピン・イフガオの棚田群とそこに住む人びとが伝えてきた棚田耕作にまつわる民の知識に出会い、フィリピンと日本で志を同じくする皆さんと協働中。著書『世界遺産を守る民の知識—フィリピン・イフガオの棚田と地域の学び』明石書店（2012年）

シンポジウムに参加します。

- 懇親会にも参加します。（会費 5,000 円、学生 2,000 円）
- 棚田学会入会希望

（懇親会参加ご希望の方、また入会ご希望の方は□枠に☑印を付けて下さい）

お名前

ご所属



e-mail

今後、棚田学会の催し物案内をご希望の方は、e-mail のアドレスをご記入下さい。